

④ 手作りの修学旅行

1 第1回修学旅行の記憶

昭和26年5月に最初の修学旅行が実施された。4泊5日（5月2日～6日）の日程で、1期生総勢14名が京阪神方面に出発。当時は旅行会社もなく、前年11月から企画係・会計係を設け、生徒自身らの熱意と努力によって、さらに雇用主の理解と学校の助力によって実現したのであった。

—引率教諭による述懐—

この時の修学旅行は生徒がプランをたて、生徒が国鉄（現JR）などと交渉し、自分たちの手で旅のしおりを作り、終始自主的にことを運び、出かけたのであった。もちろん教師が監督し指導してのことだが、今のように観光社や教師がしいたレールの上を滑るがごときに行く旅行ではなかった。

—旅行記（校友会誌『葦』第4号より）—

神戸 省電に乗る、走る事物凄いスピード、体だけが前に進んで脳神経が後頭部よりはみ出しそうな感じ。サッと止ってアッという間に出入りする、その何と機敏な事。

京都 一番印象に残るのは何と言っても清水寺。高い舞台に立たされ昔の人が運だめしに飛び降りたという下を見下ろす。

奈良 芝生の原に親鹿仔鹿が沢山みられたが、それでも戦前の三分の一に減った由、昔が想像される。

大阪 偉大な発展に恐縮、すべて人の頭で成した業績かと思うと、文化の前にはほとほと敬服せざるを得ない。

—第1回修学旅行反省記録（修学旅行報告書より）—

- 積立金不足のため学校から15,000円を前借りした。
- 不時の事故を予測して旅行先の親戚の住所・氏名・電話番号を調査した。
- 宿屋のサービス料金が予定外だった。
- 携帯米（一升）が不足して帰りの船中で困った。 などが記録されている。



2 最初の東京方面修学旅行

第2回からは行先が東京方面に変更されたが、第1回同様今回も生徒たちが自主的にプランを練った。

—苦難続きの計画—

東京旅行は2年生のころからの計画であったが、家庭や経済の都合、勤務の事情などで一度は挫折しかかった。それを田井能主事の励ましで委員たちは気持ちをたてなおして、家庭の意見、日程、見学先などの希望を聞き、東京への旅館やコースの紹介を行ったりの大忙しで、計画が確定したのは出発一週間前であった。

—委員を務めた方の述懐—

思えば、東京旅行は私達にとって、一大壮挙とも言うべきものでありました。つくづく、よく行って来たものだと思うと共に、多くの困難を押切って宿望を果し得たことに、改めて大きな喜びを感じないではられません。

（校友会誌『葦』第5号より）



—その後—

旅行時期が春から秋に変更されるなど多少の変動はあったが、東京方面への修学旅行が毎年4年次生を対象として実施された。修学旅行への参加は学生生活の喜びであった。

—旅程—

4月28日 (月)	9:48 松山駅発 (準急せと)	※「準急」は、停車駅が急行列車より多く、普通列車より少ない列車のこと 「準急せと」は、昭和25年10月1日に誕生。高松機関 - 松山間を運行 ※ 高松機関以降の乗り換えについては不明
4月29日 (火)	6:30頃 東京到着	13:00頃～ 東京見物（観光バス利用） 上野にて宿泊
4月30日 (水)	東京見物 (午前：全員で井之頭公園、日比谷公園等)	※「銀ブラ」とは、銀座の街をぶらぶら散歩すること (午後：NHK第一スタジオ、銀ブラ)
5月1日 (木)	東京見物 (午前：自由行動)	(午後：浅草、国際劇場)
5月2日 (金)	鎌倉見物	江ノ島にて宿泊
5月3日 (土)	箱根、熱海見物	22:00 東京発（急行せと）
5月4日 (日)		19:33 松山駅着

修学旅行中の2期生

